

授業科目(ナンバリング)	発達と老化の理解Ⅱ (DA213) (実践的教育科目)			担当教員	中村 龍文・石橋 亜矢 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>「発達と老化の理解Ⅰ」に続き、人間の成長と発達の過程における、身体的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>本科目においては主に高齢期について、老化により起こる心身機能の変化、日常生活に及ぼす影響やその対応について理解できる。同時に、高齢者と健康についても、高齢者の疾病や生活上の留意点を理解することができる。以上より、福祉・介護の専門的な知識と技術を理解できるようになることを目標とする。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。</p>							①②③⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	健康寿命・介護予防のために、高齢者の日常生活支援での留意点を考えることができる。 介護・医学関連の用語に対して正確に説明することができる。				定期試験 課題レポート	50% 10%	
情報収集、分析力	高齢者の身体の基礎的な疾患について説明できる。				定期試験 プレゼンテーション	10% 5%	
コミュニケーション力	高齢者の心身機能の変化を、本人を取り巻く、家族や他職種と協働で支援ができる。				課題レポート	10%	
協働・課題解決力	健康寿命・介護予防のために、高齢者の日常生活支援での留意点を考えることができる。				定期試験 プレゼンテーション	5% 10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「定期試験」(65%)の成績を60点以上とし筆記試験(持ち込み不可)を行う。定期試験の内容は、授業中の説明した内容、教科書及びプリントの中から出題し、基本的な知識が定着しているかどうかを評価する。「課題レポート」は(20%)、随時授業中に課した課題を提出後、フィードバックを行い評価する。「プレゼンテーション」(15%)はグループでPPを作成しプレゼンすることで評価する。各教員が100点満点で評価し、授業回数の配分で最終評価とする。</p>							
授業の概要							
<p>医療現場で医師の資格を持つ教員と認定看護師の資格をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。</p> <p>人間の成長・発達の基礎的な知識と、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識に基づき、高齢者に多い疾病や身体の不調、日常生活での留意点等を学ぶ。また、高齢者に起こってくる心身機能の変化が、日常生活に及ぼしている影響を学び、その対応や健康な生活を考えていく。No.1～5の5コマを中村、No.6～15の10コマを石橋が担当する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座12 『発達と老化の理解』 中央法規 発行者：荘村明彦 参考書：『ぜんぶわかる 人体解剖図』成美堂出版 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック2018上 中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>福祉の対象者である高齢者が、どのような人生を歩んできたのかに関心を持ち、高齢者の日常生活を具体的に知ってもらいたい。そこから、高齢になっても社会参加や自己実現が可能となる福祉職の対応へ繋げて欲しい。 注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は事前連絡を行うこと。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	高齢者と健康①	高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、高血圧、心不全、狭心症、心筋梗塞、不整脈について学ぶ。(中村)	循環器疾患について復習する。 呼吸器疾患について予習する。
2	高齢者と健康②	高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、肺炎、気管支喘息、COPDについて学ぶ。(中村)	呼吸器疾患について復習する。 脳血管障害等について予習する。
3	高齢者と健康③	高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、脳血管障害、認知症、パーキンソン病について学ぶ。(中村)	中枢神経疾患について復習する。 代謝性疾患などについて予習する。
4	高齢者と健康④	高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、糖尿病、脂質異常症、痛風、消化性潰瘍、肝炎について学ぶ。(中村)	代謝性疾患について復習する。 その他の老人性疾患などについて予習する。
5	高齢者と健康⑤	高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点として、骨粗鬆症、関節リウマチ、変形性関節症について学ぶ。(中村)	運動器疾患について復習する。 次回の予習を行う、
6	高齢者の心理①	老化や障害を受容する高齢者の気持ちについて学ぶ。また、身近な人との別れを受けとめる高齢者の気持ちや、死別が生活にもたらす影響や意味を考える。(石橋)	予習：高齢者の特徴について調べる。 復習：高齢者の老化を整理する
7	高齢者の心理②	社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち、経済的不安を抱える高齢者の気持ちについて、社会状況との関連も考えながら学んでいく。(石橋)	予習：社会状況と高齢者の生活、 経済状況等を調べておく 復習：不安要因を整理する
8	老化に伴う心身の変化と日常生活への影響①	高齢者の日常生活で、老化に伴う心身機能の変化による食事への影響を具体的に考え、適応や対応について考える。(石橋)	予習：身近な高齢者の食事を考えておく 復習：老化の食事への影響を整理する
9	老化に伴う心身の変化と日常生活への影響②	高齢者の日常生活で、老化に伴う心身機能の変化による排泄への影響を具体的に考え、適応や対応について考える。(石橋)	予習：排泄と心身機能について調べる 復習：排泄の対応を整理する
10	老化に伴う心身の変化と日常生活への影響③	高齢者の日常生活で、老化に伴う心身機能の変化による移動への影響を具体的に考え、適応や対応について考える。(石橋)	予習：移動と心身機能の関連を検討しておく 復習：転倒についてレポート
11	老化に伴う心身の変化と日常生活への影響④	高齢者の日常生活で、老化に伴う心身機能の変化による清潔への影響を具体的に考え、適応や対応について考える。老化による日常生活への影響を受けながらも、高齢者が安心して生活できる環境についても考える。老化についてプレゼンを行う。(石橋)	予習：清潔と心身機能について調べる 復習：高齢者の心身機能と環境について整理する。
12	高齢者と健康⑥	老年症候群について、その特徴を学ぶとともに、廃用症候群を予防のための日常生活における留意点を学ぶ。同時に、健康寿命・介護予防についても考える。(石橋)	予習：廃用症候群を確認しておく 復習：予防のため生活上の留意点を整理する
13	高齢者と健康⑦	要介護の原因となる高齢者に多い病気の症状とその特徴、日常生活上の留意点について学び、疾病予防・健康管理についても考える。(石橋)	予習：高齢者に多い訴えを考えておく 復習：予防に必要なアセスメントを整理する
14	高齢者と健康⑧	高齢者の病気や体調変化への対応、疾病予防や健康維持のために、医師、看護師、保健師、PT、OT、栄養士、薬剤師等の保険医療職の理解並びに連携について学ぶ。(石橋)	予習：高齢者と保健医療職の連携について調べる 復習：多職種連携を整理する
15	まとめ	発達や老化を理解し、高齢者の日常生活への支援や社会参加、自己実現等について考えていく。また、今後多死時代を迎える中での地域包括ケアの在り方を考える。 定期試験の説明を行う。(石橋)	復習：高齢者の状況、支援のあり方を調べる 教科書やノートを確認し定期試験に備える